指遠松歌集

上

ほうゝ乃舍文庫
番號 冊數 箱號
九 壱 壱
貳

哀自一至五
雜四季
〃 賀
〃 恋
哀傷
終

特別
イ 4
3163
6(2)

貴
14
3163
6(2)

拾遺和歌集卷第十一

戀一

天暦御時哥合　壬生忠見

恋ひてのち名をたつものと知りぬべし思ひそめてし思ひなりけり

平兼盛

題しらず　貫之

我ならぬ人もなにとて我ばかりあはでとしのへぬらん

[illegible]

[illegible]

平公誠

題しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるみの中納言乃こゝろを所とみくつゝ引

小野宮大納言

あれしらくのゝ人をみしのわらきこゝろをせて引

返し

をゝ殿と御ものいふ人乃なまなかなれば

兼しら次

濃こゝろあれとをのゝ人わるこゝろ業和こゝ成ゝ

大井河くすゝ引るのみ

人まる次

みなうゝ乃ゝ和ゝ乃ゝ玉と乃ゝ

ゝ成ゝ

ゝ人ゝ

ゝ次

ゝ成ゝ乃ゝこゝ

いゝせん命ゝ和ゝこゝ和ゝ

ゝ和ゝ

ゝ乃ゝ

ゝ侍ゝ

ゝ次ゝ

ゝ

ゝ次

ゝ成ゝ

ゝ和ゝ

ゝ

ゝ

ゝ

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大霊會御御願の物ゝ侍る所よりハ乃

[illegible]

寛祐法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原實方朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小野宮大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つ[illegible]

[illegible]

大伴百世

[illegible]

源信基

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菅原輔昭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第十二

戀二

題しらず　　よん人しらず

春の野にあさるきぎすのなくこえの
ちかくのみきくるかなしさかな

人麿

なきそめしかはのみなかみとしつきを
へてこのかはのせにはなりにけり

みつね

あまのかはとしのをかけてこぎいでし
ふねのかぢのをとはきこえけり

人まろ

我ゆえ

よん人しらず

わがゆえにものをおもふと人のいふ
ひとりぬるよのかずもしらなく

源重之

澤のゐのあやめかるてふ名にしおへば
よん人しらず

こゝろにしたがへるこのはをすかんとて
ゆきかへりぬる　藤原忠房朝臣

京にはあらぬものとしるしるもなほ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本院の乃君[illegible]

[illegible]

平行時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

忠房卿[illegible]

[illegible]

大納言さねより

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるあきの頃伝授

一源橋殿

ふるとしのうちにはるたちけるとてよめる

藤原敏行朝臣

我のみしたとりてかきれどあらたまの年の内に春は来にけり

物ごとに伝授

りとすまを

年かへりて春立ぬるとしたちてはるこそ

藤原敏行朝臣

みよしの山の白雪とけにけるかは

物ごとに伝授

なりとられたる源氏物語の奥の巻に

春の日の光のどかなれば花の散るらむこころしづけし

春の日の光のどかなれば花の散るらむこころしづけし

春の日の光のどかなれば花の散るらむこころしづけし

物ごとに伝授

春方門出

人の数をばさめ物とぞ思ひしを世は秋のみにあらざりけり

大体方見

藤原ら頃

職部かりそめ

物ごとに伝授

りてこそ乃みこ

俊成卿女

春日野のわかなつみにぞ行くとはるの山べに

春日野のわかなつみにぞ行くとはるの山べに

[illegible]

たづらす　みりの孫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

勝觀法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集卷第十三

戀三

題不知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石上麿

[illegible]

人まろ

何[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]

秋乃月[illegible]

園韓院[illegible]時[illegible]屏風八月十五夜月[illegible]

人まろ

[illegible]

[illegible]

平兼盛

月乃[illegible]

源さねあき

[illegible]

中務

[illegible]

人まろ

[illegible]

京よりのぼりて侍りける頃
みちの月のあかりの和
歌

人麿歌

歌のてにはをもはかりて月新
たいらの次
てる月し新みなうちとりつかわ
月はなくなく野をうるおもかと
つ
こと葉つかひ物の記意とする
つ
中宮四侍 馬
題しらず

月新とわかるあかつきもなりぬ今をあらはやこん
新聚集和歌要
ひとあめの度とる月はなさこそ事は数ふ
たいしらす
人まろ
長月あかつきの月はあかつき君しきまさこそ我恋めや
月のかつらをとりてあらく
きてみるとうとうとあるまに新歌人
春宮大進
題しらず
ふるの雲はなくなくはとりはいはるる
人麿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集卷第十四

戀四

題しらず　人麿

[illegible]

元輔のむすめ　藤原實方朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小貳命婦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源頼光

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源のよりまさ

あさぢふの野べの秋の夕ぐれ
虫の音ばかりうちまがふなり

つぐ歌

百葉集和歌所

なみだ河うき世をわたる舟なれば
世をうしとのみ思ひ入るかな

源さねあつ

今はとて思ひ入る海の底までも
人をうらむる身はなりにけり

藤原惟成

天暦御時歌合

春風のまどをとをみ世をうぐひす
ものいはぬ人のこゑをきくかな

御ぞうしよりて世なりひらの

新古今集

春の夜の
月のかげさへ
ものうきは
ねぬ人をいとふ
ものなりけり

ものうきは
ねぬ人をいとふ
ものなりけり

源のなりまさ

ものうきは
ねぬ人をいとふ
ものなりけり

ものうきは
ねぬ人をいとふ
ものなりけり

源のなりまさ

ものうきは
ねぬ人をいとふ
ものなりけり

ものうきは
ねぬ人をいとふ
ものなりけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲井なる人とゝまるべきものなれば
あくとゝまりてゝ人伝ふる
人まろ
ゝ我よりあわれて雲井なる者ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集卷第十五

戀五

善祐法師のもとにまかりてものがたりしけるを時雨のしけるに

ものがたりしけるを

ものがたりしけるを

人まつ

数しらず

伊勢

ものおもふころはあまたあれどあるかなきかのこゝろかな

すがのあまのたくもの

すがのあまのたくもの

人しれぬ

すがのあまのたくもの

人しれぬ

すがのあまのたくもの

人しれぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原有時

[illegible]

つゆ

[illegible]

人まち顔

[illegible]

つゆ

[illegible]

人人

[illegible]

雨とふる涙とのみそそぎつゝ我
君ゆゑ我と濡くる袖よ涙とのみ
袖のうらみをのこすなりけり
まくらゝの思いまも絶ぬ我ゆゑ
女房りてよりの
[illegible]
風にうつるこゝろとをとるよりの
[illegible]

源景明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天爵[illegible]製

[illegible]

[illegible]

平忠依

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第十六

雜春

[illegible]

[illegible]　　凡河内躬恒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小文屏風に

[illegible]　　右近

延喜十五年内裏歌合

[illegible]

紀貫之

春くれば瀧のしらいとくりかけて
霞よりこそ織りはじめけれ

右水門繪に住吉の社の乃日和のよ
ねたりしを詠りしよりけり

中務卿具平親王

あくるとも君をまちつる梅の花
かをるにつけてあけぬなりけり

ちりぬるかをりをとどめ置てはる
ちかくなれば梅をみるべく

贈太政大臣藤

梅の花ちるとみるまで散しかな
らぬ春の屏風なりけり

人丸

梅の花ちるとみるまでわがやどの
雪ふりしきてはるかすみけり

中納言為隆卿庭

左大臣御三人子
養老の人

我宿の梅の花さかりなり
天暦御時大てん所の侍ひ
こしらいの内えさうの前
にて

禁中女房の局より禁松枝

一條摂政

花の色はあかなくにうつろひぬ
新院御時梅の花のりてり御所
治く花宴せさせ給ふ殿上の人
とて

侍子し天子御所ノ

[illegible]

源寛信朝臣　左京太夫式部卿敦実親王子

内裏乃御遊行幸乃時

参議仲衡

清和乃七日乃宴乃屏風乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延喜十五年前院屏風之歌をよませたまふ寄月

[illegible]

思事のみしてそのかをとる雪のうちにはなのさかりを

小一條の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新院子内

[illegible]

右大将實資下臈[illegible]

清原元輔

[illegible]

叙位[illegible]

大中臣能宣

[illegible]

[illegible]

康和二年春[illegible]

[illegible]

題しらず　　よゐんの御こしき

さらぬ時ばかりの月ぞ秋の夜の
（太宰権帥経平卿の歌）
ながめかねてはよもあかしつる

山里の家ぬしかつらの人にあてゝ　　弓削嘉言

春とゝのへ月のかつらのよつかたらくしてはなを
なこそ花の雪にはよ侍りけれとゝ花さかりの
ひとゝきはかりのうつろひとゝのわさとはいとゝ

春の野にまこもをかりしとゝ　　賀茂法師

題しらず

春の野にかりくるまこもをかりしとゝ
なにはの風にまこもの葉はなびくとゝ

みつの浜

はるゝとゝ雪とけなんさゝなみにまこもの葉はなびくとゝ
はるゝとゝ物とゝ形にはゝ新まこもの葉はなびくとゝ

よゐんの御こしきの花ざかりに
延喜十時月次の屏風のうた

御厨子所より多飯及多御膳ヲ供ス所より別當頭所ノ元アリ於荼毘

みつの花

桜花ちる宿ごとにわれとゑんなさ物ゝさハ[illegible]
ちるゝ乃花のさそ[illegible]
[illegible]

春のこゝろをあわれ

[illegible]

後京殿の西ノ[illegible]ト物ニ云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原忠房朝臣

[illegible]

つゝ二首トを忠房ノ奇ナリ

[illegible]

同聽院御時三月の御屏風に花の木侍けるを

わけまちわぶる里の春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金鼓　和名ひらつみつゝの
御奴婢に仕ひ給へ細やかなる
事あり名なれこえくおもて
なりしかたに江次第に
圖書金鼓とあるすり

藤原長能

ちはやふる　石山寺　聖武天皇の御時朗行僧の建立　丈六の聖観音如意輪　石井

つゆ分行く
みんなしに
ちはやふる　石山寺　聖武天皇の御時朗行僧の建立　丈六の聖観音如意輪　石井

敦慶式部卿の宮　光宮

行くらつ
月清く

主殿寮伴氏の伴奴すり　法華経奥義抄に
伴部奴也と　殿ハ禁廷の掃除なの役者より

迎春門時南殿

源忠朝臣

梅花

梅の花
雪

梅の花
雪

舞

三月

梅花　梅の花　雪　梅の花　雪　舞　三月

菅原捕日（スケアキ）　三位文時子

[illegible]

屏風の[illegible]

[illegible]

延喜の時の屏風よ　つら梅よ

[illegible]

亭子院京極の[illegible]

[illegible]

花をこそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一條の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如覚法師　九条除目子　元亨釈書巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

公任朝臣

ゆきかへるみやこのかぜにさそはれてはなのにしきをたちぬるかな

四月朔日ころ花ども

春ゆく郭公なくこゑ聞かばいまはの限りなるかとぞ思ふ

（閑院ぶきんゐんぶきんゐんぶ）

延長元年の八月廿八日法皇御方に京極殿にて

ものの行くすゑつかた屏風の前なる花

けふのみぞ

松風のかよひかたわけ絶えぬとて

延喜御時菊合の時

殿上人知のことも奇つくるかをりかな

白太后文殿の文殿章

（禁中より）

あらしにはちりのこりたるさくらばなの雲とのみぞ見えまがへる

（彰子 道長公女 一条院后 長保二年二月廿日中宮上東門院号之也）

屏風より

（詞）

春宮門 藤公任

（枝）

ひさかたの月のかつらのはなにまがふ

郭公

（うつり香の）

郭公なくこゑのうちにはなのかをりのうつるなりけり

屏風の歌よ

重之

（侯高祖おとゝ所ニハツネニ天子ノ氣アリテ呂后ヲ召ハ
ルヨシアルヒ史記ヨリヒキテ抜
ニ注ヲウツシ心ヲヤスハ
伊抜ニハ后の実名
と云ふのやうとあり）

紫式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一條摂政の小方かうよう侍りける時

謙徳公の北方八三品代明親王の伊娘

贈皇后宮懐子 謙徳公伊尊の妻冷泉院の女御花山院母后

[illegible]

躬恒

[illegible]

古今に大あるふれ歌の下まとあるなれば[illegible]

拾遺和歌集巻第十六

雑秋

屏風に七月七日 順長六位源大納言大饗の日まうけの三尺の屏風にかきたりしの[illegible]

源順

荆楚歳時記云七夕陳瓜菓庭中以乞巧有嬉戯紙於瓜上則以為得巧[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寂照大江定基と法名を参議斎光の子也三河守任官すまつと
名れて悉まのぶ〻く息信初
の門をもあり長保三年三月
天台六の間をたづき事れて寂照と名乗入宋やう
南湖の知礼法師に問へり寂照知礼乃答釈と拾て功名さん
よやうと丞相了晋公おしこうく呉門寺に出彼答釋
を従三位入道
元亨釈書

平定文

秋ぬれば露ぞ置まさる山の端の月の光の待つ間なれば

藤原義孝

たのめこぬ夜の明がたの月なれば有とも見えぬ物にぞ有ける

右衛門督公任

七夕後朝

あかつきの別の袖の涙にぞ逢ぬ夜の数ぞ積れる

つれなさ

行恒集にきみまちあかしてのち
二日よりのち花をけさ見
ほのぼのとうちとけすれば
京はこれ

なのめにて君をまつ夜の明がたの月を恨ぬ人はあらじ

紀ノ貫之

ひかりきえ雲のなかなる春の月ぬれぬ人なし

天暦御屏風

春の風ぬれぬ人なし

三條太政大臣家にて哥合
道兼公東四関白

春の月なれば

源重之

春の月ぬれぬ人なし

春の月ぬれぬ人なし

備前適帖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

園韜院殿屏風よ秋の暮ゆ花ちる

[illegible]

平為盛

[illegible]

[illegible]

つ[illegible]書

[illegible]

たつらす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中宮のうちの[illegible]

[illegible]

善源為改 お後登子保章子 文章博士四位

[illegible]

延喜十九年九月十三日御屏風よ月よみて

[illegible]

歌渕源　渓渡ハ李周翰注流点ニシ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清慎公千賀の屏風に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹風を恨てこれをかくしてはかくれぬ事とて伊勢の国の[illegible]
嘯風やもちる物ゝ八重菊に
[illegible]
きくのもとにて侍るをつらねて
菊八重中伝て花を盛りの花八花を世まさりさきそめとおもしろくうつろふを見あれば嘯風のうきもちるの中をうばふと況とかなん
老ゝ者てよりて記事歌ゝ菊
[illegible]
人まろ
[illegible]
屏風ゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中納言

小一條大納言　良信

[illegible]

[illegible]

大中臣能宣

[illegible]

みつね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

順業ニ康保二年廿五月八叙三位侍従のち右大臣

源順

侍従の君に参りまゐりて秋の夜の月の明かりに

十月つごもりの日殿上の人々とともに露に

ぬれてかへりまゐりけるに

清原元輔

秋もまだ深くもあらぬ夜の月の

時雨と

源順

雲ぬきの神無月にぞ時雨とは

十月つごもりの日

源順

名残をしみ給ひ

冬の日陰なくあらひ法師のもとに

みつの孫

法師の君なりしかば神無月にぞ

天暦の時侍従の君集めさせ給ひ

中務

うすきて

ちるもみぢ葉とのこるもみぢ葉

侍従

天暦御制長

しるべ給ふ君宣旨の案ことのはの

檜中納言義懐八歳にして後ひとめの御院の

義懐公謙德公の三男正二位
中納言より三月寛和二年六月
廿二日花山院御出家御日
御供に入給て従家に位に

[illegible]

三百卒首ゆる

賞翫好忠

[illegible]

高遠相如の家の冬の夏月御物語

[illegible]

[illegible]

文治六左近集に云り[illegible]
宰相兵衛督俊に小忌さすれ
くこそ言捨をゆめまこすれて山蔭を[illegible]
小忌はれてを新堂金[illegible]
のつさまふくるかの小集のうけりの
使もこ年ふや

[illegible]

東宮安義公左近

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集卷第十八

雜賀

延喜二年五月中宮御屏風之日　紀貫之

[illegible]

屏風に　家集にはこれをよみ侍りけるとのたまふ　伊勢

[illegible]

九條殿の后五十賀屏風に竹ある所に花の木

[illegible]

[illegible]

元輔集にされみ為光の
ちさまことを出く出ハ
まれて言ゆえをいひ行
しるしなし

（イニ為光と為ハ元輔集也ガ別）
ためみつの朝臣の御前に
さくらをうゑさせたまふ
とてうゑ侍りける

ちりのこる枝かそへん物ならぬ
花のつもりをみるにつけても

三条院寛和二年七月十六日十首うたあはせ
みくまのゝ浦のあまをとめ
ひろひをかせてをきてかつせける

よゝの人こゝ

さくらの花のちりかゝるをみて

賀屏風

（四条宮集ニ近長四年頃ノ成式部ノ六十賀ニ伍中納言ノ言ハレタリ）

ちりのこる枝にかゝるさくらの花
泉にも不変の物なれハ殘しとそ思ふ

冷泉院の御時

ちりのこる枝にかゝるさくらの花
をしむ人のこゝろにまかせて

（宮子十六ヶ）

たゝ方

ちりのこる枝にかゝるさくらの花
をしむ人のこゝろにまかせて

元輔

（五十日 破子朝ニ）

大蔵卿章しのこの破子
をとりよせて

松のこゝをみるとせしかとも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

迎春門時所院屏風ニ書せんとて

つゝ極書

[illegible]

[illegible]

天爵門時四裏ニ

村上帝四皇子母九条師輔公女一品式部卿為平親王

[illegible]

参議好古

大蔵省録子 後撰作者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

君無さとしてあひうかりてはかりきとなのうんをすん
右大臣家にくわうあたのてをてわけめ給
つくりてうこうをてまつるまてをまつ給うり
水樹多徳趣とうの題を
すこしむかすかのうちにはのかみさうはのけをうつせ
はうくんかうし侍るかうり

殿中細言敷恩

うとせうの霜の露とかをきおくをきのうき物をきをうそ
清和の皇子みこうの八十賀を明のみかきに侍
うの時に屏風に奥の書のうたをかうる

はるのき

雪ふりかくせとしをまてとよをのうたをかうる
元慶のよりより
うそ

とをすを

春にいとの事のあるをとをみてうてん命をうくる
中将より侍るの時右大臣源定方朝臣のうり
やくをうけてつくるすうて

右大将實資

流伝の文りのあるを拾花

ひとのうの歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みさゝれ山 ゝ名八宝西坊
大将 中ノ将の呉名ナリ
トアリ

[illegible]

[illegible]

平の誠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月上中日之内日使之近衛中将つぼと公事根源よりの
春日乃使之事

[illegible]

一源頼政

[illegible]

[illegible]

[illegible]

斎宮大夫道綱母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

兼家殿御[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言朝光

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

従四位下石近中將長保四年出家入道中納言義懐男

藤原朝光法師

義懐逐世ノ伝所ナリ

[illegible]

[illegible]

雖ノ後ハ生死ヲ知ル心ヲヨメル

[illegible]

則忠朝臣母

[illegible]

魂ヲカヌ

拾遺和歌集巻第十九

雜恋

恋ヒ死ナムトテ恋ヒワタルコロ

題不知

柿本人麿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大中臣能宣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人をもかなしみて　柏木大和

やまとにはあらぬ人をもかなしみて
ものをおもふとしるしなりけり

秋ごろ病重くなりぬる頃

ふるさとの人をもとはぬ
秋の夜

相模

極楽寺の僧正のもとにつかはしける

人をのみ待つとはなしに
ものをのみ思ふ身にのみ
あるかなしさ

重名獄ヒトヤ　牢罪人ノ所也

平貞盛ヤ

さだもりすけ
かなしみ
さとにもあらぬ
ひとをまつ

くまのに

ホノロシクヨロコブ

文はるるひとのあるみの
おもてにうちあるあるぜにぞ
わるかとこのほうぜにぞ
わるかとこのほうぜにぞ
ものをもとはぬ

[illegible]

三源の爲方たゝまつるもわろしとて
[illegible]
[illegible]
家歌　[illegible]時[illegible]
[illegible]
[illegible]

八三雁八月雁の想合より

[illegible]
[illegible]
[illegible]

推書盤不二六り

[illegible]

和名抄に通波賓

[illegible]
[illegible]
[illegible]

筑前り

[illegible]
賀茂祭時祭の使[illegible]
[illegible]

在原業平朋臣

[illegible]

花方の天切に存ぜ心ライ入れり意所なり

[illegible]

兵衛　秦成忠成安

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今宵の月の明かさ見るにつけても
思ひ出でぬ人の面影
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貫之集ハ延喜二年五月中宮御屏風四月おかうとの家ニ伺ふ
太神宮より三箇ノ十ヶ

貫之

[illegible]

藤原長能

[illegible]

和名ニ賓倉ヤウ一云神殿ヤウ

[illegible]

七日參ハ[illegible]
彼文の外ニ[illegible]
[illegible]
稲荷山
十七八町奥ヨリ[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第二十

清慎公息女三人アリ
慶子女御 朱雀院妃
述子 弘徽殿女御
今一人 大系図ニアリ

哀傷

[illegible]

小野宮大臣 清慎公

[illegible]

平兼盛

[illegible]

おなじ時のうたあり

[illegible]

清原元輔

花の色をやとしむれば物ゝ哀

大中臣能宣

櫻花散り物うつ春の雨は降るとも見るかな見

ゆ事を待ち侍りて

大納言通光

春のさ、なみ川そひに櫻花散りまがはるまで雨の降

中納言教忠

さかりとよ侍るあるあさとよ人の侍りわて花見

侍りかて

一條摂政

侍りしらるとの行ゝ花見ゝ

天暦御時内裏にて人々に花の歌をよ

宗忠抽出人々の歌

ませられ侍りしに

義人無庫

宗忠抽出

永延元八月廿日道兼公

うへとのゝ日ぐらしの内わるまさ物と

侍りきとまんく

雲間春大臣

関白道兼公

春乃とやあやめ志ぬ恋ぬ世乃ゝ

右兵衛佐

右兵衛佐の

乃りしまつ

春大臣

あをやまをまつとはなく郭公
なくやこゑ人の待つらむ　古々井社　伊豆也

藤原道信朝臣

ほのぼのとあけぬるかたのしらくもの
はるるそのかの花のしたかぜ

母君のもとにまかりそめ侍りけるを女五宮の御ハ廣幡の御息所なり
女五の宮よりとて

天暦御製

時のまもたえぬのりのみちなれば
ちりかうしらぬこころのはなの
書のなかなりて作らるる所秋冬の恋し歌
作られた

大貳國章

おもひきやこの妹のなきこころ
ちりぬるはなのあとをとはんと

中宮かくれ給ふてのち秋沙お[illegible]載せ
[illegible]
歌ども

天暦御製

ものおもへばさきみちるをだにたれ
書りしかわとさきみちるをだにたれ
作らく

万葉ノ二九番ヨリ五年放ト云
或ハ三年離トアリ

あきのつゆ
天暦六年八月十五夜
紫薇院の御宴
於外二三条北朱雀西四町
なりし霧

あきのつゆ秋の月にてはやうつ
ろはやうつろはやうつろはや
なりし霧

紫薇院の御宴は九月九日の法事なり
紫薇院の池の
[illegible]

摂津納言敦忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず　よみ人しらず

すみ染の衣の袖の神垣に波の玉かけ[illegible]

拾遺　恋五　忠岳の行幸の時よめる　義孝

[illegible]徳氏小方[illegible]

わすれじと[illegible]

前大僧正行尊

[illegible]

藤原為頼　中納言兼雅孫

[illegible]

右兼門院宮仕

題しらず　伊勢

[illegible]

題しらず　よみ人しらず

[illegible]

清原元輔

[illegible]

平兼盛

[illegible]

大納言朝光公[illegible]（花山院の女御[illegible]姫子）[illegible]

事をきゝて[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]朝光妻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宇多帝ノ御子ウミテ伊勢御息所ト云ハ甚ミテ子ヲ[illegible]ケリ

[illegible]（やきぼる）[illegible]

[illegible]（中ち）[illegible]

[illegible]

言不盡理

平定文

[illegible]

中納言兼輔の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こういとつゝこゝにまわられて

夫人　高沢

いうあせん志ふかの事つゝ見ぬ（恩恵の心より）

よみてわたるゝ人のひとわかれ海

もとわ秋のくれわよゝとゝ人ゝ見てわ

前れし

春の花惜りんちこゝわゝ山さこの月は

しす秋よゝとゝれわゝく

中務

手ゝ折ゝ志つまゝもゝ川の長岐ゝ

しまこにとくれたてわて

うれおゝ者ゝ世ぬ物ゝ分ゝ

歌ゝ

夫人　高沢

春ゝ山ゝ

きゝ川のゝ桜ゝ

（三ゝ人ゝ三ゝ）

人ま坂

さゝ浪ゝ心志ゝ乃ゝ

（狭峯嶋）

ゝ川ゝ乃ゝ

ゝ乃ゝ

（高砂世流）

ゝ

紀友則ガ[illegible]

[illegible]

[illegible]

御制歌　朱雀院

[illegible]

鳥邊山ハ桓武天皇平安城遷城ノトキ此地ヲ葬所ト定メラル延暦遷都記ニミエタリトイフ海ヤミヨリ

[illegible]

古墓何世人不知姓名ト云ヘル伊勢ノ[illegible]

草ヲ[illegible]

沙弥満誓

[illegible]

忠蓮禅門房の弟子法師の[illegible]

源相方朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朱子勸学文
勿謂今日不学而有来日

法華経譬喻品

慶源孫阿　大内記　法名尊敬

藤原高光

一天中因縁

山家福寺三ヤ寺と号

右衛門尉公任

[illegible]

東三条院詮子皇太后宮のことなり
女院御所へ謙捧物をかつぎて参りしかたの事

[illegible]

女院御所と忌たる故なり

[illegible]

音竜浮木[illegible]

秋院

天暦御時おなじ[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝[illegible]

（平安人大中大夫橘善根之子也十歳持法華経出家）
性空上人

（法華経化城喩品従真入於真永不聞仏名と）
[illegible]

雅縁女武部（いずみ）
和泉守[illegible]妻
号和泉式部

極楽往生[illegible]

仙慶法師

[illegible]

市門[illegible]

宮也上人（天録二年九月於東山西麓入滅）

[illegible]

法海公女聖武后
光明皇后山階寺御願
奥福寺ノ

[illegible]

大僧正行基[illegible]

（浄名の報恩会ニ[illegible]童樹菩薩大論云三年間母乳百八十石ヲ心地観経ニ見エタリコノ心ヨリ）
法華経[illegible]

（百）
[illegible]

（十）
[illegible]

南天竺ノ東大寺僧菩提ニ
（波羅門姓の名ヨリ）
[illegible]

（教学説法之時行基菩提ト誓約ノ因縁アリニテ九人ニ）
[illegible]

摩訶陀国法花会場ヨリ
霊山の釋迦[illegible]

波羅門僧正（天平勝宝三年四月為僧正）

（菩提唐ノ五臺山ノ文殊ノ霊應ヲ聞傳テ居タリシニ若狭ニアリテ文殊八日代ニ託生スト云リケレハ本朝ニ来ル）

伽毘羅衛國釈尊エソミヒ國より

[illegible]

聖徳太子高麗（日本紀ニ）畠山高遠（オコナヒ）人（ヒト）乃家ニおいてまるる

歌あるひとみちの[illegible]にあせわたるなのわた

まつ[illegible]ゆきあちをわかまてる

あまつ[illegible]とわくさわそたくらまわたるする

いら馬らわおわてあるひとあるりとまわ極だく

見給くしらさたるうゑの浦をぬさてうへ

[illegible]

[illegible]（松月ヶ）[illegible]畠山よおなま

[illegible]（君遠世海人子傳）[illegible]

詩後撰哥曰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]